

# 新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 藤井 信  
新潟県山岳協会  
長岡市学校町3-11-7  
TEL 0258-32-4835

事務局 諏訪恵一  
長岡市高畑町610-10  
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集  
委員会代表 横山征平  
岩船関川村下関1100-1  
T/F 0254-64-0469

## 平成十四年度新潟県民体育大会 兼第五十七回国民体育大会 山岳競技会新潟県予選会

### 岩船関川村で開催

去る四月二十七日・二十八日の両日関川村で開催された。初日の二十七日十二時三十分から同村「道の駅」にある農村文化交流センター「のゝむ」で開始式に引き続き、縦走競技が行われた。スタート地点は、松平集落内の畜産団地脇で、通称三角点山（五七六・五m）を最高点とする周回コース（全長約7km）で行われた。

参加選手三十八人は新緑に染まるほどの森林コースを疾走した。特に山頂周辺はブナの原始林で、本来の登山であれば、しばしの休息のところであるが、選手は記憶に残らない程の勢いで通過していった。

十日町地域消防署所属の佐藤昭則選手の驚異的なスピードには、大会計時員もスタート地点からゴール地点への移動が急がなければならない速さで入ってきた。

二十八日は午前八時から「道の駅」にある「せきかわふれあいどーむ」でクライミ

ング競技が行われ、選手十四名は高さ十mの垂直ボードで競技仕様にセッティングされたホールで到達高度を競った。なかでも成年女子の新潟山岳会春日未奈選手の壁を舞う様な身軽さには応援席も釘付けになった。

大会成績（個人入賞者）

●縦走競技の部

- 一位 十日町 佐藤昭則
- 二位 高田 片桐健太
- 三位 十日町 若井栄一
- 一位 成年女子 須藤吉仕子
- 二位 白根 小野仁美
- 三位 同 神保和恵
- 一位 少年女子 水野美咲
- 二位 同 小林美久
- 一位 十日町 柳 和宏
- 二位 同 樋口大棋
- 三位 同 若井一樹

●クライミング競技の部

- 一位 成年男子 平山俊満
- 二位 岩広 中山友博

三位 岩広 船山大伸  
 一位 成年女子 春日未奈  
 一位 新潟 春日未奈  
 一位 少年男子 山田真史  
 二位 同 十五雷蔵  
 三位 長岡高専 須藤晴紀

●団体戦入賞チーム

一位 岩船山岳会 A  
 二位 同 B  
 一位 少年男子 A  
 一位 糸魚川白嶺 A

二位 三条 A  
 三位 糸魚川白嶺 B  
 三位 三条 B

二日間にわたり選手、役員、並びに会場村の関川村の皆さんに感謝申しあげます。  
 なお、今後の北信越大会・本国体への選手については、強化合宿への参加もあり、選手選考については、ご本人や学校と協議の上決定する予定です。（森国体委員長）



成年女子クライミング種目で健闘の新潟・春日未奈選手



成年男子縦走種目で一位の十日町・佐藤昭則選手

# 安全・遭難対策報告書が

## まとまりました

遭難対策委員長

谷 中 隆 明

昨年十一月に加盟各団体に発送された安全・遭難対策に関するアンケート調査票の回答をもとに、三月に、「新潟県山岳協会加盟団体における安全・遭難対策の実態及びその問題点と課題」と題する報告書を取りまとめ、三月の常任理事会の了承を経て、先日の評議員会で報告・承認されました。既に、各役員及び加盟団体に送付されていることと思えます。

この調査は、近年、登山活動を巡る社会情勢が大きく変化している中で、登山における安全・遭難対策もまた時代に即応したものに充実・強化していく必要に迫られているとの認識から、その背景となる各団体の年齢構成や活動状況等も含め詳細かつ多岐にわたる調査をもとに、遭難対策委員会が取りまとめたものです。回答は、加盟七十三団体

中五十六団体から得られました。調査結果の概要は次のとおりです。

- ① 会員が著しく高齢化している団体が多く、早急に若年層の大幅な入会促進を図らなければ、協会加盟のほとんどの団体が今後ますます構成員の高齢化が急速に進行する。
- ② 各団体の山行活動は、全体として活発に行われているとはいえず、また、山行の状況の把握が不十分な団体が多く見受けられる。
- ③ 遭難事故は、一九九〇年以降二十件の報告があり、うち死者七名、重傷者十名。これらのうち、公的な救助組織が出動したのは十三件。
- ④ 各団体での安全・遭難対策の状況、各地区の遭難対策協議会への参加・協力の実態。
- ⑤ 各団体は、若い新入会員がほとんど入会してこない中で、

事故に対する救助能力の不足、会員の安全・遭難対策に対する関心の低さに苦慮している。⑥ 県山協に対しては、山岳遭難事故に対する技術的な充実や警察、消防等との連携の必要性を求める一方で、遭難事故に対する協会の役割そのものの見直しの必要性についての指摘がある。

これらの調査結果を踏まえ、報告書では、今後の課題として、① 若年会員の入会促進、② 遭難事故発生情報の収集と周知、③ 安全対策、遭難対策の情報交換、④ 遭難救助のための備品の整備と相互活用、⑤ 各地区遭難対策協議会等への参加、協力促進、⑥ 安全対策、遭難対策に対する協会の役割の見直しが必要としている。

ここに示された各加盟団体の実態は、誰もが漠然と感じていたことでしょうか、このような形で明確にその実態を示したことは、少なくとも県山協では初めてであり、他県でもほとんど例が無いと思われまます。

会員の高齢化、会活動の低迷、安全・遭難対策の脆弱化等、いずれも個人あるいは所

属の団体内だけで問題を抱えていないので、相互に情報交換しながら協力して問題に当たることで、改善への糸口を見出すことができると考えます。現に、小数はありませんが、積極的な取組みをしている団体もあります。

そこで今年度は、この報告書を踏まえ、各加盟団体の皆さんと十分な討論を行う場を設けることを計画しております。上中下越各一か所程度を予定しておりますので、是非ご参加ください。

なお、当報告書は、県山協のホームページでもダウンロードできますが、団体内で活用するために冊子として更に当報告書が必要であれば、遭難対策委員長(谷中)までご相談下さい。

### 五十嵐篤雄追悼登山

- とき 六月八・九日 (由) ①
- 八日 午後四時から新発田市滝谷「農村婦人の家」で追悼記念講話／懇親会／食料、食器、寝袋、登山用具持参、参加費一人千円 当日受付
- 九日 午前六時追悼登山／蒜場山 自由解散 参加申込は左記へ
- 〒959-1231-1 北浦原郡豊浦町荒町甲 426-12 下越山岳会 高橋正英
- ☎0254-1221 2810 八ガキで 申込 五月三十一日迄

### 山岳協会報発刊紹介

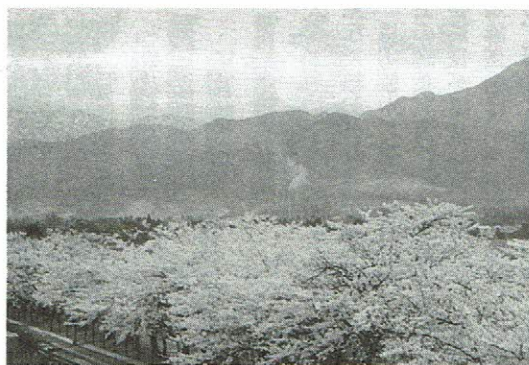
- 「十周年記念誌」南魚山岳会(井 春文会長) 発行。講読希望者は同山岳会へ照会。
- 「くちなし」新潟山岳会(阿部信一会长) 発行。残部あり。一部千円。照会/申込同山岳会へ。
- 「秀峰」三条秀峰山岳会(会長望月 力) 発行。講読希望者は同山岳会へ照会。
- 写真集「阿賀源流の山々」亀田山岳会本間一人。講読希望者は六月十六日以降、本人へ照会。

## 中国青海省登山協会 親睦登山日程決まる

新潟県山岳協会と中国青海省登山協会が兄弟提携を結んで十周年に当たり、これを記念し現地で記念式典を行うこととなり、次のとおり日程も決まり、参加者の申し込み受付を開始しました。細部日程については次号でお知らせします。

・日程 十月五日～十六日  
新潟空港発着

・内容 登山(五千m級)ト  
レッキング/観光コースの  
2コース  
・照会/参加申込 新山協  
海外登山委員会  
小林重一委員長まで  
〒950-2054  
新潟市寺尾東3-5-19  
T/F 025-  
260-1842



五頭山-光禿、飯豊、二王子の山体が延長する五頭連山

## 山と岩石

さわがに山岳会 小野 健

### ⑬ 五頭連山から阿賀野川渡し

地球の構造は、すべて個性的な魅力を秘めながら、その存在価値を誇っていますが、万とある山にもそれぞれ固有の生い立ちがあります。ですから私達は、百名山とかなじみの山を決め込んで通いつけているのです。

山の地貌や地形は、大方、地質・岩種の変化と重なることが多く、さらに積雪や植生にも大きく影響しています。つまり、山容は、内に蔵した地質的特徴によって創られているということでしょう。

新潟周辺からも遠望でき、親しまれてきた五頭連山は、前衛烏帽子岩にみられる、笹川流れ、飯豊山地と同類の花崗岩です。

このように、下越の名山は概して酸性深成岩が多い。近隣の祖倉山から蒜場山に至る流紋岩帯には、鉄、銅、鉛亜鉛を採掘した鉱山跡が残っています。

阿賀野川を渡り、南部の菅名岳や大蔵山になると、三疊紀前期の粘板岩・砂礫岩・緑色岩などの海底堆積岩に変わって、火成岩等とはまったく異質の山体となります。

### 次号掲載予定

- ・自然保護研修会の実施報告
- ・⑭シリーズ「山と岩石」の解説
- ・中国青海省登山協会との親睦登山計画と参加募集
- ・平成14年度新山協事業計画
- ・仮称「道楽岳人」不定期連載

### お知らせコーナー

## 新発田湯ノ平口 通行止め解除

昨年道路改修と湯ノ平小屋改修工事のため一般車を通行止めにしていましたが、昨年暮れに何れも完成し、今年七月六日の市民登山を皮切りに通行止めを解除します。  
(下越山岳協会 高橋正英)  
・収容三十五人、宿泊料未定。  
・一階管理人室/休憩室  
・二階大広間



新装湯ノ平小屋

# 平成十三年度 新潟県山岳遭難対策協議会総会 への出席報告

遭難対策委員長

谷 中 隆 明

去る三月二十六日(火)に、新潟県庁で標記の総会が開催され、県山協から藤井会長(当総会の議長)及び谷中遭難対策委員長が出席しました。

当協議会は、県山協の他に消防、警察、自衛隊、気象台、地区遭難対策協議会、県庁内の関係部局等、県内の山岳遭難対策に関わるほとんど全ての機関が集まるもので、毎年度末に総会が開催されています。

今総会の主な次第は、①参加各機関の十三年度実施事業及び十四年度事業計画の報告、②県高体連の活動における事故防止対策(事例発表)、③民間山岳救助の活動状況と補償についての協議でした。

県警本部が取りまとめた山岳遭難発生状況によれば、昨年度は、中高年層の登山ブームを反映して、山岳遭難の発

生件数、遭難者数いずれも、過去十年の最高を記録したと、特に関東圏から百名山を目指して行く県外登山者の遭難が急増しており、昨年度は登山による遭難者(六十三名)のうち県外者が六十四%を占めたことが報告されました。民間山岳救助に関して、栃尾市山岳遭難対策協議会、南魚沼郡山岳遭難防止対策協議会等から活動報告があり、糸魚川市、岩船地方山岳遭難対策協議会から民間山岳救助隊の編成について、救助隊員の高齢化、少数化、職場の理解が得にくい場合があること等について問題点の指摘がありました。

また、県山協から、①現在は、協会として遭難救助活動を行っていないこと、②法に基づいて消防及び警察が救助活動を行っている中で民間団体としての県山協がどう関わるかについて問題点を整理する作業に取りかかっていること、③加盟各団体の高齢化が著しく、遭難事故を起こしたときセルフレスキューに支障をきたしている団体が多いこと等を発言しました。

## 編集こうき

山岳遭難救助に関しては、消防、警察、自治体等の公的機関と県山協、山岳団体等の民間団体との関係、さらには救助用のヘリコプターを整備し飛躍的に機動力を向上させている消防・警察と高齢化、少数化等により機動力を著しく低下させている山岳団体との関係など、整理しなければならぬ課題が山積しています。遭難救助という非常に厳しい状況の中での活動になるだけに、今後これらの関係機関と充分協議しながら課題の整理を進めていく必要があるという点で、共通認識が得られたと考えております。

▲ 今後開催される事業には積極的に参加し、加盟団体相互の融和につとめたいものです。

▲ 今冬の暖冬小雪は春にも影響し、桜前線も異常とも言えるスピードで北上しました。春の早い到来に、山の熊クンもさぞ寝不足がたたっていのではと心配になります。また、このような年は動植物の生育に悪影響を及ぼすと言う古老もいますが、果たしてどうなりますやら。

▲ 登山の目的は人それぞれですが、大方は四季折々の地表の風景に感動し、登っているとおもいますが、青海町「さわがに山岳会」の小野健さんのお知恵をお借りし、山岳を構成している地中(地質)にも関心をもちながら、登山をしたら、これまでの登山の楽しみも倍増するのではと、新山協ニュース三頁の「山と岩石」シリーズを毎号楽しみにしております。(征)

▲ 新山協評議員会開催の件  
新山協の総会とも言える評議員会が、去る四月六日新潟

登山・アウトドアの専門店



新潟市東大通2丁目5番1号 ☎(025) 243-6330(代)

登山・ハイキング・クライミング  
テレマーク&山スキー



パーマーク  
長岡市西宮内2-97(長岡市役所裏通り)  
TEL0258(37)1200-FAX0258(33)1164  
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>